



ポルトガル語版広報みのかも

そこでは提案ですが、日本の文化や習慣、観光名所などにも興味がありますので、ぜひ、ポルトガル語版の広報で取り上げてくださいます。次回号を楽しみにしています。(本郷町 Jさん)

ポルトガル語版広報について 私は、美濃加茂市に来て1年になるブラジル人です。今までは、母国語の情報が少なく、ゴミの出し方などが分かりませんでした。しかし、母国語による広報のおかげで、正しいゴミの出し方ができるようになりました。在住外国人に、情報提供しようとして努力していただき、大変うれしく思います。

## ひびき 言わせ

冬が近づき、今年も風邪、インフルエンザの季節となります。 茂子「その子の風邪がうつったのかもしれないわね。寒くなってきたし、今日は暖かくして、早く寝なさい」 康子「そういえば、せきをしていた子がいたわ」 茂子「お帰り。あら、いつも元気のいい康子なのに、風邪じゃないかしら？同じクラスで誰か風邪をひいている子はいなかった？」 康子「そういえば、せきをしていた子がいたわ」 茂子「その子の風邪がうつったのかもしれないわね。寒くなってきたし、今日は暖かくして、早く寝なさい」



第四十二話

予防しよう！ 風邪・インフルエンザ

人は年間平均5〜6回風邪をひくといわれています。中でもインフルエンザは、急激な高熱、悪寒、筋肉痛、けん怠感などの全身症状を伴うので注意が必要です。乳幼児や高齢者は、体力や抵抗力が弱いと、インフルエンザにかかると、乳幼児では肺炎、脳症、高齢者では肺炎、気管支炎などを起こしやすくなります。そのため、インフルエンザの予防接種を勧められています。予防接種をしておけば、インフルエンザにかかったとしても、軽くて済みます。予防接種は、流行期の約1カ月前、つまり、11月〜12月の間に行う必要があります。詳しくは、医療機関にご相談ください。大切なのは、風邪をひく前に、風邪を予防すること。そこで、今年の冬は家族みんなで、次の予防ポイントを心がけた生活を送りましょう。

ブラジル人はもとも明るく、友達を作ろうと、積極的に話しかける、そんな国民性を持っています。ブラジルの若者は、学校や公園で、夜遅くまでグループになって遊んだり、話したりすることが大好きです。そのため、駅前などで集まって、話し合っている風景は、ブラジルではごく普通のことなのです。ただ、ブラジルでの生活習慣を日本に持ち込むことについては、個人的には良くないと思います。

他国の人は日本人をどう思う？ 私は、実際に外国人の人と接したことが無いのですが、駅の周辺でたくさん外国人が集まると、座り込んでいる様子を見ると、ちょっと恐怖心を持ってしまいます。 それでは反対に、外国人の私たちは、私たちがどのように思っているのでしょうか。偏見や差別は無いのでしょうか。お互いの理解のために、一度聞いてみたいですね。(太田町 Iさん)

ブラジルのことわざで、「ローマに行けば、ローマ人のようにしなさい」とあるように、日本に来たからには、日本の習慣に合わせる必要があると思います。どこの国にも、いい人と悪い人がいます。日本に来ているブラジル人の9割は、ちゃんとした目的があつて、日本で一生懸命働いています。それを日本人にも分かってもらいたいですね。しかし、残りの1割がトラブルを起こすために、外国人に対して、あまりいい印象を持っていないのだと思います。 私自身は、日本人に対し偏見を持っていませんが、一般的に日本人は、何事に対しても、あまり積極的でないように感じます。あまり人と話したがらないことから、そう感じるのかもしれないですね。 また、日本の若者に関しては、ブラジルの若者と比べると、責任感があるように感じます。 外国人と日本人は、文化や生活習慣の違いがあるため、誤解していることがたくさんあります。しかし、お互いが交流を深めることで、誤解や偏見が無くなっていくのではないかと思います。

実際に、日本人といろいろな話をしたいと思っているブラジル人は大勢います。日本人も、もっとオープンに(積極的に)なつて、互いにコミュニケーションが取れるようになるといいですね。(西町 Kさん)

取得しよう！ 風邪・インフルエンザ

予防接種をしておけば、インフルエンザにかかったとしても、軽くて済みます。予防接種は、流行期の約1カ月前、つまり、11月〜12月の間に行う必要があります。詳しくは、医療機関にご相談ください。大切なのは、風邪をひく前に、風邪を予防すること。そこで、今年の冬は家族みんなで、次の予防ポイントを心がけた生活を送りましょう。

あなたの子育て、最新のあなたに、三つの質問をします。 あなたは子どもと会話をしていますか？(あいさつも含めて) あなたは子どもと一緒に食事をしていきますか？(毎日だけでなく結構です) あなたは子どもと一緒に遊んでいいますか？(毎週でなくても結構です) 以上の質問に、すべてやっているか答えたらあなたは、「親子のきずな」はばっちりです。二つはやっていないと答えたら、まずは大丈夫でしょう。一つだけと答えたら、ちょっと心配ですね。そしてまったく当てはまらない人は、親子のきずなが切れかかっているか、切れてしまった人が多いと考えられます。 この質問を聞いて、「こんなことを言う人もいるでしょう。」「確かに、子どもと話したり、食事したり、遊ぶことはほとんどない。」「けど、子どもの欲しがる物は何でも与え、毎日の生活に不自由な思いはさせていない。」

取り戻そう親子のきずな ただ今子育て真っ最中のあなたに、三つの質問をします。 あなたは子どもと会話をしていますか？(あいさつも含めて) あなたは子どもと一緒に食事をしていきますか？(毎日だけでなく結構です) あなたは子どもと一緒に遊んでいいますか？(毎週でなくても結構です) 以上の質問に、すべてやっているか答えたらあなたは、「親子のきずな」はばっちりです。二つはやっていないと答えたら、まずは大丈夫でしょう。一つだけと答えたら、ちょっと心配ですね。そしてまったく当てはまらない人は、親子のきずなが切れかかっているか、切れてしまった人が多いと考えられます。 この質問を聞いて、「こんなことを言う人もいるでしょう。」「確かに、子どもと話したり、食事したり、遊ぶことはほとんどない。」「けど、子どもの欲しがる物は何でも与え、毎日の生活に不自由な思いはさせていない。」

## だんらん

あなたの身近な話題やうれしかったこと、腹がたったこと、「広報みのかも」を読んだ感想や、特集として取り上げてほしい内容など、気軽に電話やはがき、ファックスまたは電子メールでお寄せください。(広報紙上は匿名で掲載しますが、住所・氏名・電話番号は必ず、お知らせください)あなたの声をお待ちしています。 〒505-8606 美濃加茂市企画部総合政策課広報係 でんわ 0574・25・2111(内線239・241) F A X 0574・28・1290 電子メール kouhou@city.minokamo.gifu.jp

親子のきずなを育てよう。 子どもにとって、親の本当の愛情とは、子どもの心や体を、あたたかく、厳しく、真正面を受け止めてくれることではないでしょうか。「本当の愛情」に包まれて育つ子どもは、いじめも、不登校も、非行も乗り越えられる強い「力」を持っているはず。そしてその「力」の強さこそ、親子の「きずな」の強さのあかしです。 私たち子どもを持つ親は、自分だけでこの問題を抱え込まないで、子育てにとって一番大切なものは何かを、みんなで考え話し合う必要があるのではないのでしょうか。 今からでも遅くはありません。お父さん、お母さん、あきらめないで。

親子のきずなを育てよう。 子どもにとって、親の本当の愛情とは、子どもの心や体を、あたたかく、厳しく、真正面を受け止めてくれることではないでしょうか。「本当の愛情」に包まれて育つ子どもは、いじめも、不登校も、非行も乗り越えられる強い「力」を持っているはず。そしてその「力」の強さこそ、親子の「きずな」の強さのあかしです。 私たち子どもを持つ親は、自分だけでこの問題を抱え込まないで、子育てにとって一番大切なものは何かを、みんなで考え話し合う必要があるのではないのでしょうか。 今からでも遅くはありません。お父さん、お母さん、あきらめないで。

親子のきずなを育てよう。 子どもにとって、親の本当の愛情とは、子どもの心や体を、あたたかく、厳しく、真正面を受け止めてくれることではないでしょうか。「本当の愛情」に包まれて育つ子どもは、いじめも、不登校も、非行も乗り越えられる強い「力」を持っているはず。そしてその「力」の強さこそ、親子の「きずな」の強さのあかしです。 私たち子どもを持つ親は、自分だけでこの問題を抱え込まないで、子育てにとって一番大切なものは何かを、みんなで考え話し合う必要があるのではないのでしょうか。 今からでも遅くはありません。お父さん、お母さん、あきらめないで。